



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年11月2日

上場会社名 ホクト株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1379 URL http://www.hokto-kinoko.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水野 雅義
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 高藤 富夫 TEL 026-259-5955
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月9日 配当支払開始予定日 平成30年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-----|--------|---|--------|---|----------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 31年3月期第2四半期 | 29,881 | 7.6 | △1,990 | — | △1,301 | — | △1,132 | — |
| 30年3月期第2四半期 | 27,779 | 6.4 | △2,783 | — | △2,502 | — | △1,955 | — |

（注）包括利益 31年3月期第2四半期 △1,018百万円（-％） 30年3月期第2四半期 △1,755百万円（-％）

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 31年3月期第2四半期 | △35.25 | — |
| 30年3月期第2四半期 | △60.88 | — |

（2）連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|---------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 31年3月期第2四半期 | 108,278 | 49,327 | 45.6 |
| 30年3月期 | 100,138 | 52,500 | 52.4 |

（参考）自己資本 31年3月期第2四半期 49,327百万円 30年3月期 52,500百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期 | — | 10.00 | — | 50.00 | 60.00 |
| 31年3月期 | — | 10.00 | — | — | — |
| 31年3月期（予想） | — | — | — | 50.00 | 60.00 |

（注）直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|-------|-----|-------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 68,700 | 2.7 | 3,340 | 5.0 | 4,490 | 11.3 | 3,020 | 24.9 | 90.53 |

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社サン・メディカ、除外 1社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 31年3月期2Q | 33,359,040株 | 30年3月期 | 33,359,040株 |
| ② 期末自己株式数 | 31年3月期2Q | 1,420,405株 | 30年3月期 | 1,168,161株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 31年3月期2Q | 32,131,010株 | 30年3月期2Q | 32,128,997株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境が改善され、緩やかな景気回復基調にあるものの、不安定な海外情勢や原油価格の高騰等から、依然として先行きは不透明な状況が続いております。また、企業間の競争激化、人手不足による人件費・物流コストの上昇や、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震等の影響もあり、市場環境は厳しさを増しております。

このような経済環境の中、当社グループは中期的な事業展開に向けた新たな課題に対応するため、「お客様のニーズにお応えした商品戦略、事業戦略の構築」を主眼に置いた経営戦略を実践し、市況に左右されない強靱な企業体質を構築するべく、事業活動を推進してまいりました。当期もきのこ事業を中心として、健康食材である「きのこ」の研究開発、生産、販売を通してより多くの皆さまへ、おいしさと健康をお届けできるよう事業活動を行ってまいりました。主力の国内きのこ事業におきましては、天候・災害等の影響により野菜の相場が高騰したため、きのこの価格も堅調に推移いたしました。加工品事業におきましては、OEM製品の好調により増収となりました。また、化成品事業におきましては、利益率が改善いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高298億81百万円（前年同四半期比7.6%増）、営業損失19億90百万円（前年同四半期営業損失金額27億83百万円）、経常損失13億1百万円（前年同四半期経常損失金額25億2百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は11億32百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失金額19億55百万円）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の生産量は、ブナピーを含めブナシメジ21,068 t（同1.8%増）、エリンギ9,156 t（同1.8%減）、マイタケ6,366 t（同9.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間の各セグメントの概況は次のとおりであります。

[国内きのこ事業]

生産部門におきましては、安全・安心なきのこを提供するため、衛生管理を徹底し、品質の向上と安定栽培に努めてまいりました。また、新たに開始したシイタケ栽培におきまして、6月に長野県の小諸にシイタケきのこセンターが完成し、シイタケの大量・安定栽培を開始し、平成30年9月より収穫・出荷を始めました。

研究部門におきましては、品質管理体制の強化、付加価値の高い新製品の開発及びきのこの薬理効果や機能性の追求に取り組んでまいりました。

営業部門におきましては、夏場のきのこ需要を喚起すべく、健康・美容・スポーツを3本柱とした「菌活」を提唱し、鮮度に拘った営業活動を行ってまいりました。生産量は北海道胆振東部地震の影響で停電となり、苫小牧きのこセンターでの生産に一部影響が出ましたが、野菜の高騰等できのこの価格は堅調に推移したことから、売上高はほぼ計画通りとなりました。

以上の結果、国内きのこ事業全体の売上高は185億34百万円（同7.9%増）となりました。

[海外きのこ事業]

米国の現地法人「HOKTO KINOKO COMPANY」におきましては、引き続き非アジア系顧客マーケットの開拓に注力し、販売の拡大を行った結果、前期より増収・増益となりました。台湾の現地法人「台湾北斗生技股份有限公司」におきましては、ブランドの構築、企画提案などに力を入れ販売活動を行ってまいりました。核となるスーパーとの販売取り組みがうまくいっており、安定した販売が可能となりました。また、8月の大雨の影響で野菜相場が高騰したことなどにもより、きのこの価格も堅調に推移いたしました。マレーシアの現地法人「HOKTO MALAYSIA SDN. BHD.」におきましては、マレーシア国内に限らず、広く東南アジアのマーケットでの販売を展開してまいりました。シンガポール向け、インドネシア向けの販売が好調だったこともあり、前期に比べ増収となりました。本社海外事業本部において、今後のさらなる販路拡大を目指し、アジア各国及び欧州でのマーケティング活動を引き続き行ってまいりました。

以上の結果、海外きのこ事業全体の売上高は23億35百万円（同7.6%増）となりました。

〔加工品事業〕

加工品事業におきましては、水煮・冷凍などのきのこの加工品の販売を行うとともに、水煮・冷凍・乾燥アイテムの開発および市場開拓に取り組んでまいりました。また、自社きのこを活用した新商品の開発や販路拡大に努めてまいりました。通販事業では、健康食品・レトルト食品を中心に販売強化を図ってまいりました。また、子会社の株式会社アーデンにおきましては、OEM製品が好調に推移し、売上が増加いたしました。

以上の結果、加工品事業の売上高は38億98百万円（同14.3%増）となりました。

〔化成品事業〕

中核である包装資材部門におきましては、原油価格の上昇に伴う製品値上げという厳しい環境のなか、新規顧客獲得、利益率の改善を目指して営業活動を行ってまいりました。農業資材部門におきましては、大型物件の獲得を積極的に行いました。新規戦略本部におきましては、豊野工場が3年目に入り順調に推移しており、販売面においても販売強化、利益率の改善に努めました。

以上の結果、化成品事業の売上高は51億12百万円（同1.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は245億15百万円となり、前連結会計年度末より31億8百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金6億26百万円、受取手形及び売掛金9億53百万円、商品及び製品2億75百万円及び仕掛品6億96百万円の増加によるものであります。固定資産は837億63百万円となり、前連結会計年度末より50億30百万円増加いたしました。これは主に、有形固定資産47億31百万円の増加によるものであります。

この結果、総資産は1,082億78百万円となり、前連結会計年度末より81億39百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は363億32百万円となり、前連結会計年度末より14億98百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金9億77百万円及び支払手形及び買掛金6億23百万円の増加によるものであります。固定負債は226億18百万円となり、前連結会計年度末より98億14百万円増加いたしました。これは主に、新株予約権付社債99億98百万円の増加によるものであります。

この結果、負債合計は589億51百万円となり、前連結会計年度末より113億13百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は493億27百万円となり、前連結会計年度末より31億73百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失11億32百万円を計上し配当金16億9百万円を支払ったこと等による利益剰余金28億4百万円の減少によるものであります。

この結果、自己資本比率は45.6%（前連結会計年度末は52.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、野菜高騰の影響できのこの単価も堅調に推移した結果、上期の業績は計画に比べ若干上振れ致しましたが、9月に発生した北海道胆振東部地震の影響で、苫小牧きのこセンターでの生産に影響が出ていること及びきのこ市場が暖冬などの天候要因や市場の需給環境に影響されるなど不透明な要因もありますが、下期につきましては、ほぼ当初計画を見込んでおりますので、第2四半期までの業績に鑑み、平成30年5月11日公表の通期業績予想を上方修正いたしました。

詳細につきましては、本日（平成30年11月2日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 8,508 | 9,135 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,783 | 7,736 |
| 商品及び製品 | 1,659 | 1,935 |
| 仕掛品 | 3,384 | 4,081 |
| 原材料及び貯蔵品 | 647 | 677 |
| その他 | 439 | 964 |
| 貸倒引当金 | △16 | △14 |
| 流動資産合計 | 21,406 | 24,515 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 60,711 | 64,247 |
| 減価償却累計額 | △24,872 | △25,889 |
| 建物及び構築物(純額) | 35,839 | 38,357 |
| 機械装置及び運搬具 | 49,071 | 54,472 |
| 減価償却累計額 | △31,589 | △33,966 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 17,482 | 20,505 |
| 土地 | 14,045 | 14,001 |
| その他 | 3,420 | 2,719 |
| 減価償却累計額 | △1,596 | △1,662 |
| その他(純額) | 1,823 | 1,057 |
| 有形固定資産合計 | 69,191 | 73,922 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 193 | 306 |
| その他 | 60 | 110 |
| 無形固定資産合計 | 253 | 417 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 7,384 | 7,372 |
| 退職給付に係る資産 | 901 | 939 |
| その他 | 1,021 | 1,131 |
| 貸倒引当金 | △19 | △19 |
| 投資その他の資産合計 | 9,288 | 9,422 |
| 固定資産合計 | 78,732 | 83,763 |
| 資産合計 | 100,138 | 108,278 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成30年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 5,967 | 6,590 |
| 短期借入金 | 20,701 | 21,679 |
| 未払法人税等 | 1,470 | 190 |
| 賞与引当金 | 1,043 | 1,096 |
| その他 | 5,651 | 6,776 |
| 流動負債合計 | 34,834 | 36,332 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 11,703 | 11,811 |
| 新株予約権付社債 | — | 9,998 |
| 退職給付に係る負債 | 347 | 358 |
| 資産除去債務 | 189 | 194 |
| その他 | 563 | 257 |
| 固定負債合計 | 12,803 | 22,618 |
| 負債合計 | 47,638 | 58,951 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,500 | 5,500 |
| 資本剰余金 | 5,695 | 5,695 |
| 利益剰余金 | 42,326 | 39,522 |
| 自己株式 | △2,111 | △2,595 |
| 株主資本合計 | 51,411 | 48,123 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,829 | 2,059 |
| 為替換算調整勘定 | △434 | △578 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △305 | △277 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,089 | 1,203 |
| 純資産合計 | 52,500 | 49,327 |
| 負債純資産合計 | 100,138 | 108,278 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月 30 日) | 当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 9 月 30 日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 27,779 | 29,881 |
| 売上原価 | 23,388 | 24,409 |
| 売上総利益 | 4,390 | 5,471 |
| 販売費及び一般管理費 | 7,174 | 7,461 |
| 営業損失(△) | △2,783 | △1,990 |
| 営業外収益 | | |
| 受取配当金 | 88 | 90 |
| 受取地代家賃 | 152 | 166 |
| 為替差益 | — | 421 |
| 助成金収入 | 115 | 33 |
| その他 | 47 | 37 |
| 営業外収益合計 | 404 | 749 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 45 | 54 |
| 為替差損 | 73 | — |
| その他 | 3 | 6 |
| 営業外費用合計 | 122 | 60 |
| 経常損失(△) | △2,502 | △1,301 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 0 | 122 |
| その他 | — | 5 |
| 特別利益合計 | 0 | 128 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | 0 |
| 災害による損失 | — | 236 |
| その他 | 0 | 0 |
| 特別損失合計 | 0 | 237 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △2,502 | △1,410 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 127 | 161 |
| 法人税等調整額 | △673 | △438 |
| 法人税等合計 | △546 | △277 |
| 四半期純損失(△) | △1,955 | △1,132 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △1,955 | △1,132 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純損失(△) | △1,955 | △1,132 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 172 | 230 |
| 為替換算調整勘定 | 2 | △143 |
| 退職給付に係る調整額 | 25 | 27 |
| その他の包括利益合計 | 200 | 114 |
| 四半期包括利益 | △1,755 | △1,018 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △1,755 | △1,018 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。